

平成27年度
学校関係者評価報告書

学校法人葛谷学園
中和医療専門学校

中和医療専門学校 学校関係者評価報告

学校法人葛谷学園 中和医療専門学校は、学校教育及び学校運営について自己点検・自己評価を実施し「平成27年度中和医療専門学校 自己点検・自己評価報告書」を作成し、これに基づき学校関係者評価を実施しましたので、ここに報告をいたします。

学校関係者評価委員会会議は、あはき関係科、柔道整復科それぞれ3名の学校関係者に外部委員となっただき、平成28年10月2日に実施し、評価を行いました。

その結果は下記の通りですが、少子化、大学全入時代と言われる今日、専門学校の入学希望者の減少、さらには同職種専門学校の増加により、学校運営は厳しい状況となっています。このような状況の中、職業実践教育の充実を図り、質の高い教育が行われることが求められます。そのため、委員の方々から頂いた貴重なご意見やご指摘を真摯に受け止め、社会のニーズに応えられる学生指導と教育の質の保証及び向上を目指し、教職員一同邁進して参る所存でございます。

平成29年3月31日
学校法人葛谷学園
中和医療専門学校
校長 右田 一弘

平成27年度 学校関係者評価委員会 開催概要

1. 学校関係者評価委員会開催日時開催日時

第1回 平成28年10月2日(日) 14:00~16:00

第2回 平成29年2月12日(日) 14:00~16:00

2. 開催場所

中和医療専門学校 会議室

3. 出席委員

第1回 小川 稔(小川鍼灸院院長本校卒業生)

村田 守宏(むらた鍼灸院院長 本校卒業生)

小林 和三(本校後援会)

藤川 和秀(愛知県柔道整復師会副会長)

右田 一弘(中和医療専門学校校長)

楠本 高紀(中和医療専門学校副校長)

古橋 一人(あはき関係科学科長)

葛谷 壽彦(柔道整復科学科長)

戸崎 素成(柔道整復科臨床実習施設長)

吉田 和生(あはき関係科校務主任)

森 輝久(中和医療専門学校事務局長)

吉野 真二(中和医療専門学校事務局職員)

鈴木 映憲(中和医療専門学校事務局職員)

平野 良彦(中和医療専門学校事務局職員)

第2回 小川 稔(小川鍼灸院院長本校卒業生)

村田 守宏(むらた鍼灸院院長 本校卒業生)

伊藤 秀雄(クローバー治療院グループ代表 本校卒業生)

小林 和三(本校後援会)

藤川 和秀(愛知県柔道整復師会副会長)

右田 一弘(中和医療専門学校校長)

楠本 高紀(中和医療専門学校副校長)

古橋 一人(あはき関係科学科長)

葛谷 壽彦(柔道整復科学科長)

清川 朝栄(あはき関係科臨床実習施設長)

戸崎 素成(柔道整復科臨床実習施設長)

吉田 和生（あはき関係科校務主任）
森 輝久（中和医療専門学校事務局長）
吉野 真二（中和医療専門学校事務局職員）
鈴木 映憲（中和医療専門学校事務局職員）
平野 良彦（中和医療専門学校事務局職員）

4. 学校関係者評価委員会議事次第

第1回 1. 校長挨拶

2. 平成27年度自己評価報告書の概要説明
3. 質疑応答および意見聴取
4. 総括
5. 今後の予定について

第2回 1. 校長挨拶

2. 平成27年度自己評価報告書及び関係者評価報告書原案について
3. 質疑応答および意見聴取
4. 総括
5. 今後の予定について

5. 議事

「平成27年度自己点検・自己評価報告書」に関する審議・評価

評価・意見（含第1回及び第2回分）

- 「検討が必要である」という記載が数箇所あったが、いつまでに検討するといった期日が設定されているのか。タイムスケジュール上、具体的な期日を設定しないと遅延が発生してしまうので注意しないといけない。
- 文章中、「治療師」という言葉があったが、用語として適切か。また表現の統一がなされているか。
- 教員採用について、今後控えるカリキュラム変更の基準に対応しているか。（柔道整復科）
- インターネット上で学生を高額の報酬の求人票で集め、使い捨てるというような事業所の話も聞き及ぶ。学校としてそのような就職先から学生を守るよう指導して欲しい。
- 学校の将来として、小粒でもピリリと辛いというように、規模は小さくなくとも個性ある姿を目指して欲しい。その為には理念が必要であるし、それを現実に実行できる仕組みが必要ではないか。

- 卒後教育の場や、セミナー、会場提供など、卒業生同士・卒業生と学校のコミュニケーションの中心となるような場であって欲しい。
- 鍼灸に対する社会のニーズが高まってきている。地域貢献等を通すことで業界や学校の知名度が上がるのではないか。
- 西洋医学系の資格の場合、大学卒と専門学校卒で就職後待遇が違うということがあった。大学と専門学校の国試合格率など、専門学校の方が優れている面もある。専門学校の有利な部分も十分にアピールして志望者を募り、どのような職場においても活躍できる質の高い学生の輩出をして欲しい。
- 他校ではスポーツ鍼灸学科というような、さらに特化した学科・コースをつくりアピールしているところがあるが、そのようなことはしないのか。
- クラス（授業担当の教員）によって、同じ授業であってもテキストが違うというようなことがあると聞いた。統一できないか。
- 定期試験でも国家試験と同じように鉛筆を使用させるなど、緊張感があってもいいのではないか。
- 地域貢献をしていく上で、学校の広報目的か学生の校外活動なのか、どちらなのか。
- 行政も医療費を削減していきたいという事で健康づくりに力を入れている自治体も増えてきている。健康フェスティバルのような大きなものばかりではなく、小さなセミナーのようなものからでも行政と連携していくことで今後に繋がるのではないか。
- 業界では、医療従事者としての品格が問われている。育成の段階で挨拶を徹底するなど、コミュニケーションの基本から学ばせることが必要ではないか。
- 学校を卒業し、5年、10年後の状況についてしっかりと考えることができるよう学校と企業・業界で情報を共有できるようにしていく必要がある。

6. 今後の取り組み

各委員からの貴重なご意見やご要望を真摯に受け止めるとともに、検討・改善し今後の教育活動に生かしていくよう教職員一同努力して参ります。

ご意見やご要望を、平成30年度からの認定規則・指定規則の改定に合わせて社会のニーズに適合するようにするためのより実践的なカリキュラムの検討や指導体制の強化等、学校運営に活用し、より良い教育を実践できるよう努めます。